

PRESIDENT'S MESSAGE

RI会長メッセージ

RI指定記事

自然ではない災害

私は、この12月にアラブ首長国連邦・ドバイで開催される国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)に出席し、そこで、気候とメンタルヘルスという二つの世界的な危機のつながりについて話す予定です。世界保健機関(WHO)が指摘しているように、気候変動は、精神衛生上の問題に悪影響を及ぼすといわれています。自然災害といえども、その精神的苦痛は、回復と立ち直りを難しくさせます。

国際的な災害救援慈善団体であり、ロータリーのパートナーであるシェルターボックスは、緊急避難所、必需品、技術サポートを提供し、約100カ国で250万人以上の避難民を支援してきました。今月の会長メッセージでは、シェルターボックスCEOのサンジ・スリカンサンさんのお話を紹介したいと思います。スリカンサンさんは、災害を語る際には言葉を選ぶことが重要である、と説明しています。

—ゴードン・マッキナリー

「自然」災害という言葉は、熱帯暴風雨や洪水、地震、火山の噴火を表すために長い間使われてきましたが、現在では、この言葉をすぐにも変えていく必要があります。「自然」と言うと無害に聞こえるかもしれませんが、私たちは必ずしもこの言葉を厳密に使ってきたわけではありません。被災地での活動を通じて学んだのは、この言葉によって、こうした甚大な被害は防ぎようがないものだ、と思込込まされているということです。このように誤解を招きやすい言葉を使うことで、支援を必要とするべき人々への行動が手薄になってしまう可能性があります。

つまり、私たちが使う言葉は重要であるということです。災害を「自然」の一環として考えると、自然と人間の行動の複雑な相互作用や、それが地域社会に与える影響を認識できなくなってしまう。

地震や津波、火山の噴火、強烈な嵐、干ばつ、洪水は地球における自然なプロセスとして発生します。しかし、これらの出来事が、人や環境にどのような影響を与えるかによって、「災害」かどうかが決まります。この場合の「災害」とは、人々が住む場所や家の構造、政情不安、支援すべき人々を支援できていないといった人間的な要素による結果を指します。つまり、災害とはリソースや権力へのアクセスにおける構造的な不平等の結果だということです。住んでいる場所や資産の量によって災害からの回復力を左右することがあるのです。最も影響を受けているのは、貧困層

の中で暮らしている人々であり、彼らには自らを守る手段がほとんどなく、次の出来事に耐えるための手段もほとんどありません。

これらの出来事を「自然」なものに見なすことで、私たちは、積極的に手を差し伸べることを諦め、疎外された恵まれない地域社会に社会的、経済的、政治的不安という、根本的な問題を隠してしまうのです。私たちのチームは、不平等や貧困、都市化、森林破壊、気候危機などの問題がいかに地域社会を脆弱ぜいじやくにしているかを目の当たりにしています。

シェルターボックスでは、単に「災害」と表現する場合もあれば、異常気象や地震、津波、火山の噴火などより具体的に表現する場合もあります。従来そのままの言葉の使い方をやめて、人々が甚大な被害に遭っている原因を正しく反映する言葉の使用を心がけていただくことを、皆さまに強くお願いいたします。

そうすることで初めて、地域社会に潜む原因に取り組み、被災したその社会を守るために必要な投資やリソース、積極的な措置を講じて、全ての人にとって、より公正で公平な未来に向けて取り組む道が開かれます。

災害は自然のものではありません。災害を「自然」と言うのはやめましょう。

サンジ・スリカンサン
シェルターボックスCEO